





身は彩はく川世回西境の中
 月一羊山子の形有し堰介あり
 流るる中我許中のひさしを
 白ゆ抽しとこまはるしとこまの
 申り業あり者守りまよ属程友を
 清一ありありとね交りふたあり
 清原無きものありの耕作の
 こむるを為しり守り守りしと
 とわらしと守りしと守りしと





花柳の美をうそ偽るものも
 才下への偽は海神を
 たりてしものうらみ
 思ふまゝそのたゞ
 かりとるうそとて
 くらとるもの

花柳を
 ば



江の梅や少知も新しけそうと
 巖多の梅くすむを山
 肩次へ宝おはふまぢきや
 烟草まきうのまて
 燈を湯衣へうく梅の
 涼しうきりほそきゆ

河見
 羊山
 醉雨
 南
 山
 百

退り亭の蔭に暮れ杖官別

嘯く ありき 合乃 顔

ふらやましく口説きせしむるあり

たたくく 去む 燈の 多し あり

あはれとす ちかき 夢を 語り 色く

ちかき ちかき せん 夢を 語り 色く

突減りし 杖を ちかき あり 友

後生 後の 記の 読書 了 子

山 南

山 南

山 南

山 南

山 南

山 南

山 南

二才

とくましく 夢を 語り 色く

とまり ありき 夢を 語り 色く

仲間 ありき 夢を 語り 色く

夢を 語り 色く ありき

符を 語り 色く ありき

夢を 語り 色く ありき

とまり ありき 夢を 語り 色く

夢を 語り 色く ありき

山 南

山 南

山 南

山 南

山 南

山 南

山 南

山 南

ついはり新見もあまし 雪の里 山

おまのまゝなましく 梅のたや足跡 山

捨きうり小籠ハ柴ク 引ッ山 山

様々 巧まき 田 糸の味喰 山

あそ ぶあ節 此ちう 糸あきたし 山

又 箱あろり ともん ともん ともん 山

名月社 そのまゝまゝまゝ 山 山

生 田 新 毒 小 核 の 糸 たる 山

既々井の中まゝく 霧の奥の記り 山

まじぬ 金 此 傳 せ 糸 山

まゝうけの針を 斗 核のあやま 山

何 ちん ちん ちん ちん 山

階の 用 糸 糸 糸 糸 山

お ちん ちん ちん ちん 山

右にあり草鞋うへ心左 静處

賣仕舞 多言 柳 枯 氷 常 羊 山

落 花 と 風 入 竹 心 持 重 羽 洲

此 南 海 と きの ぬ 島 寄 り 柳 霞

柳 舟 上 列 卒 溜 り 川 妻 舟 能 時 山

ふ きの とも 柳 寄 堪 ら ぬ ち 舟 洲

鏡 ぞ 今 々 菊 一 枝 今 友 在 待 雲

耳 の お 隣 を 千 り 柳 一 枝 山

由 鏡 小 鏡 へ 一 枝 寄 柳 の 庭 洲

河 上 子 舟 今 々 坐 の ち とも 舟 處

仲 人 と 兄 合 八 回 一 枝 何 山 山

古 路 小 舟 一 枝 又 毛 一 枝 洲

冬 結 舟 神 代 乃 鏡 を 鳴 け ぬ 舟 處

と 結 舟 跡 の 言 とも 乃 舟 山

待せぬく自由と来り手舟なま

山

十日登ふせく九人の勘定

山

たまたま此小を毛茶に持てり

山

ふは〜と園が裏あそび

山

新風の強きまを〜と輝一乃春

山

多〜と〜と〜と〜と〜と

山

柳〜と〜と〜と〜と〜と

山

水引解くかゝる水ぬる

山

日聖ま〜と八曲うもたのよ春にすま

山

物ま〜と〜と〜と〜と〜と

山

龍吟〜と〜と〜と〜と〜と

山

つら〜と〜と〜と〜と〜と

山

のら〜と〜と〜と〜と〜と

山

白と毛抜の石を〜と回抽

山

月代を紙のりたる峠〜と〜と

山

ま〜と〜と〜と〜と〜と

山

とやうくと新海の様はつとま

とてはしほくの男まきま

新海よりとまきまのうま

とまきまのうまはりま

知の時隠木即の名は

世を記すとま北は

とまきまのうま

とまきまのうま

山 羊山

ぬまのうまはりま

とまきまのうま

とまきまのうま

とまきまのうま

とまきまのうま

南

非^レ^レ^レを^レ^レ木^ノ様^ノ垣^ノ 南

深^ク^レ^レ法^ノ華^ノ路^ノの^レ亭^ノ 山

日^ノ三^ノ度^ノ如^ク^レ^レ時^ノを^レ^レ是^ノ 南

中^ノ居^ル者^ノ一^ノま^ノる^ノ由^ノ鏡^ノ 山

活^カし^トあ^ノ知^ルの^レ悟^ノを^レあ^ノは^レ新^ノ禱^ノ死^ノ 南

よ^クあ^ノら^シく^レ一^ノ空^ノの^レう^ノつ^ノあ^ノら^シく^レし^ノ 山

程^ノを^レ^レハ^ノ情^ノ山^ノ寄^ル 舟^ノ上^ノ舟^ノり^ノ 南

屋^ノ柱^ノふ^レと^レん^ノ乃^レ肩^ノを^レま^ノき^ノく^レ秋^ノ 山

後^ノ以^テ若^ク乃^レ山^ノの^レま^ノよ^ノ川^ノく^レお^ノ細^ノ法^ノ 南

換^レ一^ノ及^クま^ノ長^クも^レま^ノる^ノう^ノと^レま^ノ川^ノ 山

さ^レま^ノう^ノへ^レと^レ大^ノ路^ノへ^レま^ノの^レ雪^ノま^ノく^レ 南

一^ノ山^ノ吹^ク 山

二才 拭^ク一^ノ本^ノ地^ノの^レ炉^ノ隊^ノの^レ影^ノ引^クく^レ 全

ま^ノる^ノあ^ノく^レと^レお^ノら^シく^レへ^レぬ^ノ練^ノ 南

美^ノの^レ法^ノを^レ人^ノハ^レ婦^ノを^レ乃^レあ^ノら^シく^レま^ノき^ノ 山

山^ノ古^ノ比^レ如^ク一^ノ信^ノの^レあ^ノら^シく^レ 南

たぬきとつらうきと隙子哉 山
 清道ゆくすは活きと表台 南
 魚とくしまあをよとくうを眠り 山
 木の葉のしと道用松のく解 南
 子啼くくまふ言ふ多能 山
 葉子の趣向も信を連中 南
 細くも度りを有るまのくを并 山
 おぼつか小粒はゆ乃うとく 南

二四

冬講 銀河の帰か減秘しを者子 全
 あさ精をくくちまきしあは 山
 振るううあんまものともく杖 全
 うき世すうんあをぬきと氣 南
 けりかきむさく替り火乃 所まよく 全
 泣ふちかと若汁 柴中の春 山

者十八句

冬来三世のりき進家をたうりけき 西京 芥舎

後進くしあをむうしき 志 志名之師 百可

澁比川ききし 少 来き 神 死 葉 福 處

神風乃とらふふさはる子苗うふ 拾 山

あよきよ濃かきき 能 望を 浪 嶽の 鮎 潮水

うま 水 菴 意うき 出 行 市 季 南 嶺

垣越せを隣 の きのよ 持 牛 不 角

きのきき は きの や 風 を 拍 ら 美 流 美

新しき水も柳をさすまうな 雅天
 春の夜も酒のおもひ 隆品 其隣 兵庫
 秋の月を人よも福を望むの事 卓志 池伊
 梧たふや隣歩り 嘉九折 淡路
 ちりつる大雲や宿りつらあやの月 周策
 月比ふあつちのさけり山乃麓 晚香
 夜白く 東をさやむるのれ 阿波 史白
 志のうまは日をもさす 亮牛

少き新雪ちりし 活と 雪江
 つらとくと知くやうなり 丹波 芦山
 梧と結ばるハチ 先ほど 丹後 櫻園
 梧と隣りく 常より 日幡 巴大
 春の夜も酒のおもひ 隆品 雨節 伯耆
 秋の月を人よも福を望むの事 卓志 曲川 出雲
 梧たふや隣歩り 嘉九折 静雄 石見
 ちりつる大雲や宿りつらあやの月 周策 憂蔵 美作

枯くさし柳をあらき角田川 備後 犁春

まろし江に秋夕款うらま柳うね 雨川

まほし七夕あやや園に作 喜水

雲むしちうまやううゆえり 安芸 翠影

そふさや梅の善修を斧はく免 雪洞

七夕や秋のゆさなをまうし寸 長門 雪也

まろし秋の夕なり系乃町 肥前 梅宿

赤のまより秋し 肥前 西洲

子梅にまや 臨き汐まつ秋くよふ 伊豫 百丈

ゆゆしきまふし 伊勢 波聲

ゆゆしき小松の中山松老如 三河 蓬宇

まき出さハ懐うゆし 樗風

相立梅 舞き ぬ世とみまきりり 石芝

堀くく 遠江 霜村

まろし 三奏

市人ふうし 十湖

十月やゆき度多き小松原 平臺
 降りてしぬき掛あふれ 洋了
 晴るまじは初冬阿そし 深き水も
 雪結る人水乃うるのそ川りふ 通義
 修練能く多き一 顔や美人州 守考
 春探る水結りなり葉乃夏 木潤
 三河路や山を松うき 草も青葉 湛水
 白蓮や清きうへし心 新あけ路 知碩

湖へ 富士結うけおく小春の能 雨竹
 吹くま由白原の軽きやそめあし 月查
 麦黄む日南きくしき 深き水も 駿河 青溪
 大新浦の秋を味とや沖津瀬 尋香
 かきまりし日初 春もくしとふ 蛸堂
 越く待暇 春し 葉りくし 桂如
 漲るししけり春の路らうら 伊豆 連水
 春もくしし 松をしきり不塔のそ 相模 壽道

一掃々々々々々の阿多特子^{相模}那 南畝
山寺乃照也^一一^一一^一一^一一^一 春塘
梅^一一^一一^一一^一一^一一^一 南壺
也^一一^一一^一一^一一^一一^一 ^{横濱}竹外
武藏 有柳
密猫結玉^一一^一一^一一^一一^一 幻史
一^一一^一一^一一^一一^一一^一 曾木
一^一一^一一^一一^一一^一一^一 九齋^下

了^一一^一一^一一^一一^一一^一 他山
一^一一^一一^一一^一一^一一^一 釣月
一^一一^一一^一一^一一^一一^一 鶴翁
一^一一^一一^一一^一一^一一^一 ^{信濃}本南
一^一一^一一^一一^一一^一一^一 掃世也
一^一一^一一^一一^一一^一一^一 省我
一^一一^一一^一一^一一^一一^一 其踐
一^一一^一一^一一^一一^一一^一 翠其

海へ入るる路ありて何れも喜乃水 ^{上壁} 桑古
 袖垣も色あふる路此路の那 為流
 未済しと宵よをまきし 碓氷 碓堂
 杉もや只あつたきと置能路 乙瓢
 眼もあつたあつた足能路を柳 ^{下壁} 茂精
 産岩しと通る道能路のし 碓氷
 離子嶋しと出やうとたつ杖の先 ^{岩代} 西美
 流りたる北日さきとあつたはらうとな 松圃

心とちかく島子なりぬ伝乃 桑五
 初冬や何れも一積ある松葉 船 岱 蜘蛛
 瀬戸もあつたあつたきとあつた ^{仙臺} 青宜
 月をみふ灯りもゆりや ^{盛岡} 芳洲
 萩もあつたあつたあつた ^{青森} 有川
 萩のきつたあつたあつた ^{羽後} 素更
 萩のきつたあつたあつた ^{羽後} 唸風
 萩のきつたあつたあつた ^{羽後} 唸風
 萩のきつたあつたあつた 二葉

時をたふや 古くは燈の如き 素山
 輪をめぐり 呼ぶ中へ 紙乃きり 試川
 伊勢志摩や 家も山も 如年の暮る 越前 雪主
 ちりきりきり 河邊夏 結新安寺 加賀 雪師
 一帯 ありて 丸も 一帯の夜 有海
 二はとを 抱ひ きのり 小六舟 雪鴻
 風なり きのりを きのり きのり 越中 嵐布
 うる 嶺く 住る 里と あり けり 越後 晴雲

あらをを みる 子供を みる 子 素青
 高き 持てる 子よ 子よ 是を みる あり 尤儀
 清き こと こと こと や 清く くる こと 所 琴磨
 大根の 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 抱月
 雲形を あり 礼を 畑の 小春の 影 蕉影
 降る や 雲 抱ひ あり 清き あり 人 流芳
 脚井や 月形 出 けを 待つ こと む 佐渡 斧刑
 輪の 雲 や 雲 雲 の 高き あり あり あり 節堂

彼より名を来りしなりけを庭乃新松前 一昇
 一隅をそのしく備し都の松屋 芸山
 鳴塚のおせきのみなり 桐狭 香雲甲斐
 としきや白くきき昆布の塩 竹良
 尺余能言々是は狐ぬし 竹虫美濃
 まくまきまき 田中の末福吉 亀遊
 紫とあやもや人のうらり 龍家 藍庭
 幅幅や泊とみぬ回乃 譯 松籠

啼くものしきしき 岩に系 松雨
 蒼きあまの 紙合うせきき 露牛
 関吉の 顔しきき 冬木立 雲白
 障のしきしき 人よきき 東京 裁
 蒼きよかきき 幽しきき 永機
 二人来く 梅球しきき 梅年
 蒼きやうしきき 阿る 枕仙
 多しきき 白き味の 五休

居るんくさるも長そや山形鳩 正義
 多を流し雪も何りたり 小松引 黙平
 市中也橋の多ゆと秋暮乃叶 芳泉
 初をちさるも風を暑くけま 完鷗
 花の中 虫めちく 里の燈々那 素石
 燈々ちく 乃る人うち海はあうを 菊雄
 灯々ちく 四女口を 志の舟 桃宜
 夏もあや 時をめふたふまのあや 詢亮齋

春のあや 形をほく 富水
 花のあや 色や柳の葉を 柏葉
 水玉の日はさる 花如女
 控く来てうけぬ 橋のあや 晚香
 多のあや 静の田舎 涼坪
 美木 不静の味 山月
 花のあや 遠の葉 吊雲
 うづ枯の枝を 素水

白くや 松をき 鑑ふ 竹一の音 大喬
戸さしぬら 葉に 影ゆく 雲の音 菅笠
空の音ある 影さか ともなき ぬきさく 雨 宇山
名月 影さく 名月 影さく 宇山 軒雄
是とこと おきむ すくも 月乃 白 恭道
より 出未て 犬小 喚す かく 哉 沙山
光さく 雨や 先 影さく 子を 影さく 大年
秋の 音さく こと 音さく 八 影さく 宇山 星城

山系 為や 咲く けり 下 口 此 音さく 林甫
松の 音さく 雨さく 音さく 音さく 謝徳
影さく 影さく 影さく 影さく 精知
戸さく 影さく 影さく 影さく 影さく 春湖
鏡中 梅影
影さく 影さく 影さく 影さく 影さく 甫
影さく 影さく 影さく 影さく 影さく 雨

羽洲 福翁や秋のまゝ 木兎の唄 雲り
 車友 花のさかき 雲り 雲り 雲り 雲り
 一思 秋のまゝ 雲り 雲り 雲り 雲り
 三来 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り
 野童 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り
 尺水 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り
 松翠 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り

呂長 照のさかき 雲り 雲り 雲り 雲り
 示啓 秋のまゝ 雲り 雲り 雲り 雲り

耳洗新あき

英齋 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り
 秋湖 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り
 雅風 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り
 二雀 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り
 桂齋 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り 雲り

高志終一 如かきく入てと梅の影 素陽
とりりきうゆね 明る葉を解く哉 煮溪
おもしろくともきうはまけりりあしとる 月孫
小松愛きうー けきうきあひり 喜道
凍解くー 風の吹くほもなうりる 陶写
積り年ふりふくもく柳くく 求古
急程能くもきもくぬ桂うぬ 一止
人きうきあしむやうぬり ぬの志 孤森

聖りはりきよりーとくきよふまゆり 五階
伸多りゆあーよたぬ柳う南 立意
おねつや十分高きは森う外 廣慶
ふきしき程ふ伸ーけり葉能苗 和雪
汲汲能きくあうきくき能風 芸可
鏡きりくーんききう小能の操能分 青池
卯のあきーきんきるるる山垣根うぬ 梅居

芳乃まぬき髪そまやわすしつこま
 坂屋のきや接五つうつよサしつ
 山とな九し初り叶しう水結水
 水鏡るまや玉梅のあまつり
 啼うらゆくありてもほろろ花如
 歌徒よ嘆くみしわし 松の露
 端振のあまききせぬや 通るし 面
 多此印うあまうて休むはみふ
 春水 三首 養素 而遊 朝霞 玉玩 其慶 吉甫

空合てみなあはれや 何さか 露
 今と居る一葉のうきを 露う那
 まよわきう 結るうし 花の輝
 多き花う 夕日あまきく 啼る聲
 何れ 嶺の草花うりく 枝のあ
 初との初りまき山まやあま結る
 一人ふまほや 懐のまきのい
 梅洲 採芝 文琴 簾白 黃疇 梅聲 鳥情

清くはぬつらとをりし 柳一葉 如水
 昔の夢をよみしとて 後引 松島
 少くも来りて 聖なる 露のまに 除方
 三日月はくも 出をある 輪 荏 大梁
 春の心つら ちきとく のまに 固節
 江乃柳 里久
 大桶 三楓

春戸畑や水仙乃をりし 出せり 鶴羨
 春の心つら ちきとく のまに 固節
 少くも来りて 聖なる 露のまに 除方
 三日月はくも 出をある 輪 荏 大梁
 春の心つら ちきとく のまに 固節
 江乃柳 里久
 大桶 三楓

車井北音も色なきもみそあつ以
杉道はをく物入おき何ふ壺水くう乾
妻荷の傍もいふさふあ山ふうれ
静慮

耳洗部小集

各指く何さあつううさ山ささ原泉
明りうう海さる梅やわをさうり
雪のたの山を指あつてさうあ
義山

あつ指も色指たさ梅のとちり哉 月窓
刺さるし刺乃うをや梅乃後 寸と女
吹すさささささささ白牡丹 雲山
月ささや袖うささゆく人乃乾 月舟
塔北さ山はさささささささ 春々
人影能ほさささささささ 一角
美ささささささ小妻能小川哉 可朝

高しつるを枝う法
山脈其之跡を里や切らぬ事
美し能くもて既く月夜うた
全 全 羊山

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 目, 山, 月, 夜, 全.



